

戦争法廃止、立憲主義守れ

対決構図
ハッキリ

～ 女性市長実現へ 集まる良識、広がる期待 ～

現職陣営

戦争法強行・改憲ねらう 自公に民主が相乗り

戦争法を強行し、さらに、憲法改悪をねらう自民党・公明党などに推され、民主党が相乗りする現職市長。国政問題を京都市政の問題にするのは「場違い」と言いながら、市営地下鉄に自衛隊募集のつり革広告を認めるなど、安倍政権の暴走のお先棒を担いでいます。

野党は共闘すべき時に 「民主党よ目を覚ませ」の声

- 福山参院議員「甘利問題…自民、公明、民主、社民、連合で闘っているのに、この問題については言いません」(28日・「平安の森」で演説)
- 泉衆院議員「民主党だけが応援する市長では気持ちが悪い。民・自・公が一緒になって…」(2日・藤森小学校で演説)
- 福山参院議員「安保法制は、市民の暮らしと関係ない」(2日・葛野小学校で演説)

「相乗り」に反対多数
…マスコミ世論調査でも

- 「相乗り」について
「好ましくない」58%
「好ましい」20%
- 争点として重視したいテーマ
「安保関連法への態度」58%

市民の共同 VS 戦争法・改憲派

戦争法と憲法改悪をめぐる重要な局面のもとで、京都市民にとってだけではなく、全国に重大な意義を持つ大切な選択の時が迫ってきました。

女性市長の実現で、戦争法廃止、改憲も原発再稼働も許さない——「安保法制廃止と立憲主義の回復を求める市民連合」をリードし、野党共闘を呼びかけている、日本の良識ともいえるべき代表的知識人が、応援のエールを寄せておられます。

“教育畑”を自慢する現職市長ですが、日本教育学会・元会長のお二人(佐藤学さん、堀尾輝久さん)が元教員の女性市長実現へ期待を寄せていただいているのは心強い限りです。

全国から



思想家・神戸女学院大学名誉教授
内田 樹



慶応義塾大学名誉教授
小林 節

(50音順・敬称略)



学習院大学教授
佐藤 学



上智大学教授
中野晃一



東京大学名誉教授
堀尾輝久



上智大学教授
三浦まり

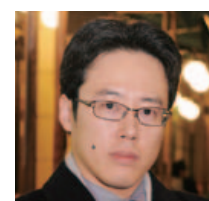
京都で



同志社大学 大学院教授
岡野八代



安保関連法に反対するママの会
@京都メンバー
西郷南海子



京都精華大学 専任講師
白井 聡



同志社大学 大学院教授
浜 矩子



ジャーナリスト
守田敏也

「憲法市政みらい
ネット」の機関紙
で紹介された方々
を紹介します。

現職陣営がウソと居直り ― 論戦でも決着つきました

「冷たい市政を変えたい」「なんとか暮らしを良くしてほしい」と願う市民の批判に、苦しい言い訳をはじめた現市長。政策論戦でも、勝負がついています。

敬老乗車証の改悪

市の方針にハッキリ明記

ウソと言うなら、なぜ「値上げしない」と言わないのか？

「敬老乗車証制度の今後の在り方に関する基本的な考え方」（2013年10月）より

- (3) 利用頻度に応じた選択的負担（応益負担）部分
- ア 基本プラン
これまでの、所得に応じた応能負担ではなく、乗車ごとに運賃の一部を負担していただく応益負担を制度の基本とされたい。
- 中 略
- (参考例：神戸市の制度)
- 1 乗車毎の利用者負担額等
70歳以上の方にICカードを配布することで、次の負担額で乗車可能
- ア 市バス・民営バス 1乗車当たり100円
イ 地下鉄等 1乗車当たり小児料金

京都市が、2013年に策定した「敬老乗車証の今後の在り方に関する基本的な考え方」では、「利用頻度に応じた選択的負担（応益負担）の仕組みへの転換を図る」と明記（上図）、70歳以上の市民にICカードを配布することで、一乗車あたり100円という神戸市の例が示されています。そして、市当局は、繰り返し応益負担への変更・改悪の検討を表明。日本共産党市会議員団が、方針の撤回を求めてきたのに対し、市当局は一貫して拒否してきました。

こうした事実から、ビラで「9月以降は『規定方針通り』『100円程度』と指摘したのです。『ウソだ』と言うなら、なぜ、『敬老乗車証は値上げしません。乗車時には一切の料金も徴収しません』と言わないのでしょうか？

待機児童

1199人も入れないのに、なぜ「ゼロ」？

マスコミ各紙も「実態と隔たり」と指摘



保育所への入所を申し込んでも入れない子どもが、1199人（2015年10月）もいるのに「2年連続待機児ゼロ」と自慢する現市長。保育所説明会では、「フルタイムの常勤就労であれば必ず入所できる」状況ではありません」「第5、第6希望まで書くこと」「書かずに申請して希望の保育所に入れないのは保護者の責任」と脅かし。実態無視、数字のカラクリに、マスコミも「待機0実態と隔たり」（読売）2日、「待機児童ゼロ独り歩き」（朝日）4日」と報道。

「聞く耳もたない」

「もっと住民と話をしないといけない」「言うべきことはたくさんある」

自民・西田
参院議員

自民・伊吹
衆院議員

四条通拡幅問題をはじめ、世界遺産の下鴨神社や二条城の景観破壊、学校跡地の民間貸し付けなど、「聞く耳持たない」現市長に高まる批判。自民党・伊吹衆院議員も「（四条通拡幅問題で）私の事務所は四条通沿いにあるが、アンケート

一枚来なかった。もっと住民と話をしないといけない」と批判。西田参院議員も「人事の偏重で職員の知恵が十分発揮されていない。言うべきことはたくさんあり、直してもらおう」と発言。推薦する陣営からさえ批判の声が絶えません。